

第 52 回東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

テーマ：傾聴力

日時：2020年1月18日

会場：五反田文化会館

出席者：17名

今回は、宮古順子先生を講師に迎え、「傾聴力」について講義をしていただきました。

宮古先生は、緩和ケア病棟の師長をしていた時、患者さま、ご家族、スタッフとの間で本当に「傾聴」が出来ているのだろうかとの思いがあり、勉強しカウンセラーの資格を取られたそうです。

講義の内容は、先生の雑学から入り、コミュニケーション、きくことの色々と進み傾聴の意義、基本的態度、こころ構え、技法について、講義してくださいました。

聴く（listen）とは、こころを込めて聴く、聴きもらすまいと熱心に聴くなど、相手を理解しようとする積極的な関心を持って聞いているということです。また、聴くというこの字は、耳できく、目できく、心できくで成り立っている。つまり耳、目、心を傾けること、という言葉が印象的でした。

途中に行なったワークは、隣の方と向かい合い、話す人、聞く人に分かれて聞き役が「木への付く漢字9つ書いてください」という指示に従い相手の話を傾聴しながら、漢字を書くという内容です。実際にやってみました。木への漢字を考えながら相手の話を真剣に聴くという体験です。いつも自分が仕事中こういう感じ

なのかと思ひ考えさせられました。

そして、自分の感性（感情）を磨く、「気づき」「悩み」「学び」「ひらめき力」を磨くことにより、自分が成長し、患者さんの声、感情を読み取り、心を、思いを聴けると良いと思いました。

「患者さんの言葉に耳を傾けること」は看護の基本です。内視鏡の現場では、効率が重視されがちですが、今回の講義を聴いて患者さんの言葉に「傾聴」出来るようにしていきたいと思いました。

アンケートでも、とてもためになった。自身を振り返りながら、講義を聴いた。患者さんの思いを知る、心的心声を聴ける看護師を目指したいなど書かれていました。大変充実した勉強会となりました。

今年は、COVID-19の感染拡大に伴い、3月以降の勉強会を開催できなかったこと、ならびに、本レポートの掲載が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。今後の開催日程は決まり次第、東京消化器内視鏡技師会ホームページ等でご案内させていただきます。本勉強会に参加して下さる皆様にとって役に立つ会を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：中森）

